

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公電)四三二二七二〇七

12.5、6全職場からの総決起で緊急行動を貫徹!

金大中氏の処刑を許すな! — 韓国国内はもとより、日本・世界で大きくわき上る抗議の声の中で、12月5日、6日にも危惧された「死刑判決↓翌日処刑」の策動は一瞬たじろぎ、先のばしされた。しかし韓国国民衆の不屈の決起に恐怖する全斗煥は、あくまで早期処刑強行の野望をふりかざし、12月10日前後にも再び処刑強行の攻撃に出ようとしている。

全ての組合員の皆さん! — こんな理不尽な、まさに政治的蛮行そのものを一体許せるだろうか。事態は切迫している。勤労千葉闘争指令第二号にもとづく第一波緊急闘争12/5全職場一斉抗議集会と12/6 24時間減産闘争の貫徹を突破口として、更に大きな「処刑阻止」の闘いをつくり上げていこう。

「政治的反対派」の根だやしを狙う全斗煥

この凶暴な金大中氏処刑↓韓国「政治犯」全員処刑攻撃策動は、まず第一に、銃剣と戦車によるクーデター、あの三千人を虐殺したといわれる、光州蜂起の血の弾圧の延長そのものであり、武力にたよる以外に民衆の一片の支持すら得られない本質的に脆弱な全斗煥独裁体制の恐怖にかられた報復弾圧そのものである。

今日、全独裁政権は、自分以外の全ての勢力を追放していく傍ら、獄中で不屈に闘い続ける非転向の政治犯に矢継ぎ早の死刑判決↓処刑攻撃をかけてきている。

9月5日に「南朝鮮民族解放戦線」(デッチ上げ)事件被告らに対し八二名に死刑、五名に無期懲役、六八名に重罪の判決Vをかけ、金大中氏らの法廷とは別に光州蜂起の被告らに対し10月25日八五名に死刑、七名に無期懲役Vの極刑判決を下し、同時に七月以降の二〜三ヶ月の間に、デッチ上げ「北朝鮮スパイ」容疑で在日韓国人「政治犯」五氏(崔哲教氏、陳斗鉉氏、白玉光氏、康宗憲氏、姜宇奎氏)に対し次々とデタラメな死刑判決を下し、いつでも処刑を強行する構えをとっている。

まさにこの数日間を争う金大中氏処刑攻撃こそは、これら全ての「政治犯」不屈に闘いつづける韓国国民衆の魂であり結集の軸柱そ

不屈に決起する 韓国人民との連帯を

第二に、われわれは、あの光州蜂起に対する虐殺・弾圧、言論統制、恒常的戒厳令、政党・労組解散、無期限休校など武力を前面におしたてておよそ考えられる全ての弾圧政策をはりめぐらしても、なおかつ、韓国の学生・民衆が生命をかけて「光州蜂起を守れ」「全斗煥独裁を倒せ」と不屈の決起をふつふつと闘いとり続けている事を、しっかりとけつとめ連帯していかなければならない。

獄中闘争をき然と貫いている金

三里塚闘争の爆発で、弾圧の元凶!! 反動鈴木内閣を叩きつぶせ!

第三に、われわれは、この凶暴な攻撃を支え助長している元凶が、ほかならぬ日本政府・支配者階級そのものである点をあばき出し、今こそ日本民衆の力で、とことん追いつめ「死刑阻止、軍事大国化・朝鮮侵略粉砕」をかかけ、反動鈴木体制をわれわれの決起でガタガタにつき崩していかなければならない。即ち反動鈴木内閣の軍事大国

化の中心柱三里塚二期攻撃を総力で叩きつぶすこと——これが金大中氏ら闘う人士を守り、韓国国民衆の不屈の闘いに学び連帯する真の道であることをしっかりと確認せねばならない。

三里塚二期着工阻止・ジェット延長阻止への闘争体制構築と固く結合させ、いつ、いかなる時でも決起しうる体制を堅持しよう。

全斗煥独裁と反動鈴木内閣による 金大中氏ら全政治犯処刑攻撃を粉碎せよ

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

更に強固な闘争体制うち固め 処刑阻止!